■死後の世界は「ある」でも「ない」でもなく、

「ある」かつ「ない」と考える

修正：　2023.01.01

投稿：　2023.01.01

●死後の世界は「ある」でも「ない」でもなく、

「ある」かつ「ない」と考える①

「老後のため！老後のため！」と老後資金をため込んだり、
「家族に迷惑をかけたくない」と介護サービスに備えたり、
「病院に行かなくて済むように…」と健康に気をつけたり、
老後に向けていろいろな努力をされていることでしょう。

そのように、有るか無いかも分からない老後については、
「備えあれば憂いなし」の如く備える一方で、どうして、
確実に訪れる死については、こうも**無関心**なのでしょうか…。
死がある以上、死後を考えるのは当然のように思えますが…。

なぜ、“宗教"の一言で片づけて、
まるで法律で定められているかのように、
その話題には触れようとしないのでしょうか？

「いやいやいや、死後の世界なんて、
　あるかどうか分からないじゃん！」と言うのであれば、
老後だってあるかどうかは分かりません。

「死後なんて無い！」と言う人もいますが、
ではなぜ**「無い」**と言い切れるのでしょうか？
「分からない」ならまだしも、
「無い！」と主張するのであれば**「理由」**が必要です。

本当のところ、私たちは、あの世どころか
この世のことについてもまったく理解できていません。
(知れば知るほど、知らないことが分かってきます)

当然、死後の世界についても分かりませんし、
今後も明らかになることはないでしょう。にも関わらず、

「死後は無い！」とか、「死後は有る！」とか、

何となく悟った気になって安心しているから、
いざ己の死を目の当たりにして、
オロオロすることになるのです。

私たちは、**死後の世界**について、
「知らないし、知ることすらできない」
ということを知らなければなりません。

（続）

//==========//

●死後の世界は「ある」でも「ない」でもなく、

「ある」かつ「ない」と考える②

死んだらどうなるのか、ということについては、
「分かりません」の一言に尽きます。つまり、
「何の情報もない」ということです。

ゆえに、死後の世界について、
「ある」とも「ない」とも言い切ってはいけないのです。
(何も分からないのだから)

それでも死後の世界を考えたいのであれば、
今の世界を**延長**して捉えていくしかありません。
例えば、物理法則は同様に成り立つと仮定します。

具体的に言えば、死後の世界においても、
マクスウェル方程式やシュレディンガー方程式が
同様に成立すると仮定します。

なぜそこまでして死後の世界を想定するかというと、
そうした方が人生をマクロな視点で定義できるからです。

人間、計画の枠組みは大きく設定した方が
精力的になれますから、できれば人生の枠を超えて
大きく目標を定めていきたいところです。実際、
そうした方が、生き生きと生きていけます。

遠くを眺めるイメージです。**今日**を見つめると
「やらなければならないこと」が見えてきますが、
人生を眺めると「やりたいこと」が見えてきます。

その他、死後の世界を概念として導入する
メリットとしては、人生の不条理に対する説明や、
犯罪の抑止による治安の維持などがあります。

ちなみに、ぜんぜん関係ありませんが、
死後の世界と似た概念として**「虚数」**という概念があります。
虚数は、(実数直線上には)存在しない数ですが、便利な概念であり、
主に電磁気学や量子力学などで活用されています。

存在しないから取り扱わない、ではなく、
便利だから活用する、といった発想です。
死後の世界もそんな感じで、概念として**便利**なので利用します。

（続）

//==========//

●死後の世界は「ある」でも「ない」でもなく、

「ある」かつ「ない」と考える③

宇宙に上下(天地)があると信じられていた頃、
「地球はフラットだ！」として世界を捉えていました。
その後、「地球は丸い」ということが発見されます。

さらに、宇宙を観測できるようになってから、
地球が宇宙の中心でないことも分かりました。
「宇宙は神様の領域だ！」とする信仰もあって、
万有引力の理論に懐疑的な人もいましたが。

そうして、技術が向上すると、
「本当に幽霊はこの世に存在するのか？」
という至極当然の疑問が湧き起こり、
これを科学で解決する機運が高まります。

そうして一時期、「霊体とは何ぞや」ということで
研究されていた時期もありましたが、残念ながら解明には至らず、
いつの間にかブームは去っていきました。

その際、「あの世」と「この世」を
ネットワークで接続するという発想もありました。
もしこれが実現していれば、歴史上の人物と
時代を超えてコミュニケーションできていたことでしょう。

もし本当にそうしたことができるのであれば、
真っ先に応用されるのは軍需産業です。思い返せば、
ライト兄弟が飛行機を飛ばした際もそうでしたし、
アインシュタインの相対性理論も応用されています。

そして時代は流れ、今や、**量子(原子・分子)**や
ブラックホールが考察される時代となりました。
もはや「宇宙は小さな粒が集まってできている！」
という認識はすでに時代遅れです。同様に、

一つの肉体に一つの霊魂があって、という単純な発想も、
そろそろ卒業していかなければなりません。**宇宙**は、
私たちが思っているより複雑なのです。

（完）

//==========//

Web サイト：
心を力学する　―原理・原則に基づく生き方を考える―

著者：
時無 和考(Tokinashi Kazutaka)